

花王のアプローチ

日々の安全確保と環境保全を図るため、化学に携わる企業の自主管理活動である「レスポンシブル・ケア(RC)活動」に取り組んでいます。

社会的課題と花王が提供する価値

製品の安定供給や品質・安全性の確保、安全で衛生的な労働環境の提供および事業活動による環境負荷の低減は、国内外に拠点を設け、幅広い産業界に多種多様な素材・製品・システムを提供する化学メーカーとして、果たすべき重要な社会的責任です。

こうした考えのもと、花王は、化学産業界の自主的な環境・健康・安全を確保する活動である「レスポンシブル・ケア(RC)活動」を推進することで、社会との信頼関係の構築を通じた持続可能な社会づくりをめざしています。

貢献するSDGs



方針

花王は、製品の開発・生産・物流・使用・廃棄・リサイクルまでの事業の全段階において、人の安全と環境の保全に十分配慮し、サステナブルな社会の実現に貢献していくことを理念に掲げています。

1995年の日本レスポンシブル・ケア協議会設立当初から「レスポンシブル・ケア(RC)活動」に参加しており、2008年には当時の尾崎社長が「RC世界憲章」の支持宣言書に、さらに2014年には澤田社長が改訂された「RC世界憲章」にそれぞれ署名を行ない、RC活動を花王グループ全体で推進していくことをコミットしています。

化学産業界の「環境・安全・健康」に関する自主管理活動「レスポンシブル・ケア(RC)活動」の基本項目※の考え方に則った「花王レスポンシブル・ケア方針」を定め、協力会社を含めた花王グループ全体で毎年目標を策定し、年間計画に基づいた活動を継続的に行なっています。

※ レスポンシブル・ケア(RC)活動の基本項目
「環境保全」「保安防災」「労働安全衛生」「化学品・製品安全」「物流安全」の5つの推進項目と「社会とのコミュニケーション」



→花王レスポンシブル・ケア方針
<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/environment/statement-policy/policy/responsible-care.html>



→P165「コーポレート・カルチャー」>労働安全衛生」

体制

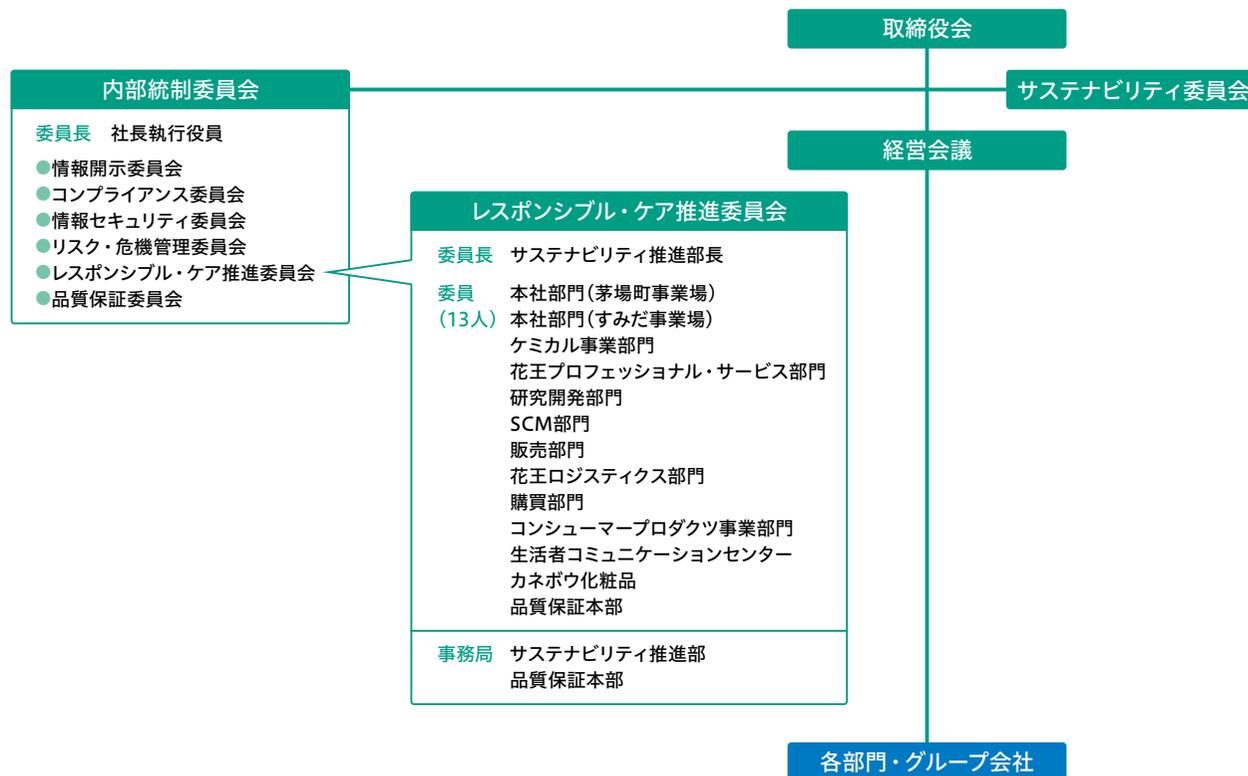
レスポンシブル・ケア推進委員会は、社長が委員長を務める内部統制委員会内の一委員会として位置づけられています。委員長をサステナビリティ推進部長が務め、日本国内の8つの推進部門*の代表に加え、4部門の代表と品質保証本部の担当を加えた委員14人で構成しており、毎年1回開催しています。事務局はサステナビリティ推進部 RC 推進グループと品質保証本部が務めています。

花王(株)を含む花王グループ内各ケミカル会社は、各国の化学工業会に参画しRC活動を推進しています。

※ 8推進部門

本社部門(茅場町事業場)、本社部門(すみだ事業場)、ケミカル事業部門、花王プロフェッショナル・サービス部門、研究開発部門、SCM部門、販売部門、花王ロジスティクス部門

レスポンシブル・ケア推進体制



※2017年12月現在

レスポンスブル・ケア活動 103-1,103-2,103-3,404-2

教育と浸透

RC推進事務局や各推進部門のRC担当者は、社員や協力会社の社員を対象に、環境や労働安全衛生活動などのRC教育を定期的実施しています。

2017年にRC推進事務局が社員を対象に実施したRCの集合教育は50回、のべ756人(国内26回、625人/海外24回、131人)が参加しました。

2015年には、日本花王グループ社員を対象にRCの基礎知識について教育を実施しており、その後の新入社員や中途入社社員約1,700人に対しても同様の内容でeラーニングを実施しました。

中長期目標と実績

花王は2020年にグローバルでトップレベルの安全確保と環境保全を満たす企業になるべく、日々のRC活動を推進しています。

そのために、目標設定の際は世界の化学会社の環境や安全に関する数値目標を確認し、最高レベルの自社目標を設定しています。

2017年の実績

2017年は9月19日に「花王グループRC推進委員会」、11月6・7日に「グローバルRCミーティング」、12月6日に「日本RCミーティング」をそれぞれ開催しました。

また、7月～8月にかけて「RC事務局監査」をグローバルの各会社、推進部門に対し実施しました。



→ P187「具体的な取り組み:RC活動の標準化」

→ P189「具体的な取り組み:RC事務局監査実施状況」

花王のアプローチ

具体的な取り組み

ステークホルダーとの協働

花王グループ各社はRC活動の基本項目の一つである「社会とのコミュニケーション」に則り、積極的にステークホルダーとの交流等、さまざまな活動を実施しています。



→ 詳細は P108「コミュニティ>社会貢献活動」

具体的な取り組み

RC活動の標準化

日本国内の8推進部門およびすべての海外関係会社は、RC推進委員会で決定された花王RC目標をもとに、それぞれの業務内容や業種・業態に応じた活動計画を立案し、RC活動を推進しています。

花王グループ各社はこのような推進体制で、RC活動のPDCA(Plan-Do-Check-Act)サイクルの確認、向上を図っています。

毎年9月に開催する「花王グループRC推進委員会」では、活動方針の徹底やマネジメント体制の強化に関する施策を討議するほか、花王グループの中期目標と8月に行なうRC事務局監査の結果をもとに、次年の数値目標と活動目標を審議します。

10月～11月に開催する「グローバルRCミーティング」では、RC推進事務局から「花王グループRC推進委員会」で決められた花王グループの中期および次年目標の説明を行ない、各社に次年の目標と計画の策定を依頼し

ます。各社からはRC活動状況を発表し、グループ間での情報の共有を図ります。

12月に開催する「日本RCミーティング」では、「花王グループRC推進委員会」で決められた花王グループの数値目標と活動目標をもとに、各推進部門のRC推進委員が次年の計画案を発表し、一つひとつ審議します。この会議で承認された内容は、RC推進委員が各推進部門に持ち帰り、推進部門ごとにより細かく設けた活動ユニットへ伝えることで、現場に密着した活動の継続的な改善・レベルアップを図っています。

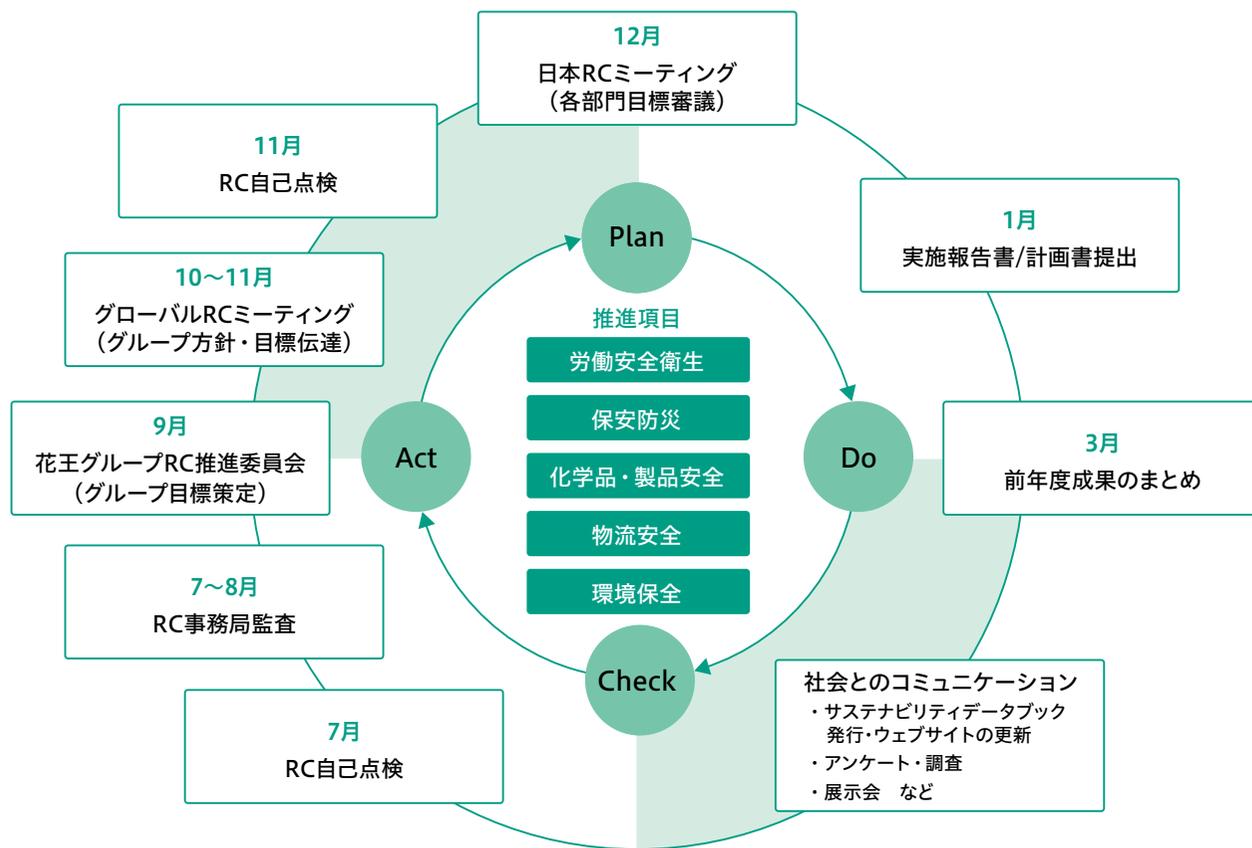
2017年は9月19日に「花王グループRC推進委員会」を開催しました。事務局からは2017年のRC目標に対する花王グループ全体の上半期の実績やRC事務局監査結果を報告しました。また、推進部門から各部門での推進活動状況を発表し、最後に審議事項として、2018年の花王グループRC目標が承認されました。

11月6、7日には「グローバルRCミーティング」を本社で開催し、日本以外では12のグループ会社(前年13会社)から15人が参加しました。会議では花王グループのRC活動方針の理解を深め、2018年の目標の確認を行なうとともに、RC活動の活性化とレベルアップを目的に各社のRC活動の状況確認とアドバイス、強み弱みの理解、ベストプラクティスの共有、グローバルRCメンバーのコミュニケーション強化を図りました。また、2017年は初となるグループディスカッションを実施し、各社での課題について話し合うとともに情報の共有化を図りました。

12月6日の「日本RCミーティング」では、各推進部門のRC推進委員が2018年の計画案を発表し、審議・承認されました。また事務局から2017年の環境・安全の実績報告を行ないました。

レスポンスブル・ケア活動 103-1,103-2,103-3

RC活動の年間サイクル



花王のアプローチ 具体的な取り組み

環境・安全データベースなどを活用

花王は、環境負荷の低減や労働災害・事故発生数の低減を図るための環境・安全データベースである「環知安システム」※を構築して運用しています。

このシステムでは、花王全体の温室効果ガスの排出量や労働災害の発生度数率・強度率などを自動算出することができ、環境負荷低減や労働災害防止に活用しています。

グループでより効率的に環境・安全データを利用するために、新しいシステムへの移行を検討しており、2017年は情報システム部門とともに具体的なシステムの検討を行ないました。2019年からの移行をめざしています。

※ 環知安システム

エネルギー使用量、温室効果ガス排出量、ばい煙排出量、水使用量、排水量、排水濃度測定結果、土壌・地下水測定結果、PRTR法対象化学物質の取扱量および排出量・移動量、廃棄物等の発生量・排出量・最終埋立処分量、労働災害統計、交通事故統計など、多様なデータを共有している。

エコロジー

コミュニティ

コーポレート・カルチャー

ガバナンス

レスポンスブル・ケア活動

RC事務局監査実施状況

花王は、RC活動の進捗状況や課題を把握するために、7月に各推進部門が活動ユニットに対してRC自己点検を、8月にRC推進事務局が国内の各推進部門および海外グループ会社に対して、RC推進委員会事務局より選出された監査チームが監査を実施しています。

また、これらの結果を9月の「花王グループRC推進委員会」および「グローバルRCミーティング」で報告するとともに、翌年の数値目標や活動目標の策定に活かしています。

2017年は7月から8月にかけて、国内8推進部門、海外は安全と環境面の影響度を配慮して工場を持つグループ会社20社※に対して、チェックシートを用いて

RC事務局監査を実施しました。2017年は従来のチェックシートに併せて新たに環境、安全の活動内容が確認できるチェックシートも用いて監査を実施しました。

日本については、各推進部門と対面で法的要求事項・基準等の遵守状況、計画の進捗状況や数値目標の達成状況などを確認しました。海外については、チェックシートを送付し、その回答結果について書類監査を実施しました。併せて今回の監査で2016年の監査時の指摘事項についてはすべて対応済みであることも確認しました。

2017年のRC事務局監査の結果について、日本では

全8推進部門で評価平均点が4.5点以上を獲得しRC推進体制が整ってきたことが確認できましたが、継続観察が必要な項目として労働安全に関する指摘が多くみられたため、さらなるレベルアップを依頼しました。海外では半数以上の会社で2016年より評価点数の改善がみられました(下表参照)。

※ 上海花王、上海佳麗宝化粧品、花王(合肥)、上海花王化学、花王(上海)化工、花王葫芦島錦星鑄造材料、花王(台湾)、花王(ベトナム)、ピリピナス花王、花王インダストリアル(タイランド)、ファティケミカル(マレーシア)、花王(インドネシア)、花王インドネシア化学、花王USA、花王スペシャルティーズアメリカズ、キミ花王、花王マニュファクチュアリングジャーマニー、ドイツ花王化学、モルトンブラウン、花王コーポレーション(スペイン)

RC事務局監査実績(2017年)

	SCM部門	研究開発部門	事業部門	コーポレート部門	国内グループ会社※1	海外グループ会社※2
設問数	151	124	184	251	410	3,262
継続観察が必要な項目	2	4	2	8	8	—
評価平均点【5点満点】※3	4.88 (4.87)	4.94 (4.96)	4.82 (4.73)	4.88 (4.38)	4.84 (4.51)	4.30 (4.16)

※1 国内グループ会社

花王プロフェッショナル・サービス(株)、花王グループカスタマーマーケティング(株)、花王カスタマーマーケティング(株)、カネボウ化粧品販売(株)、花王ロジスティクス(株)

※2 海外グループ会社

20社(アジア13、欧米7)

※3 ()内は2016年の結果

レスポンシブル・ケア活動

国際マネジメントシステム認証状況

花王は、RCマネジメントシステムを全拠点を対象に導入していますが、環境の国際規格であるISO14001、労働安全衛生の規格であるOHSAS18001の認証や各国の認証も受けています。

環境に関する認証取得状況(ISO14001等)

外部認証を受けている工場の割合は95%です(総生産量重量基準)。

活動の標準化・高度化をめざし、個別工場で取得している認証の統合を実施しており、日本とアジアの15工場で完了しました。今後、2015年版への移行や統合する工場を増やすなど、認証取得拠点の拡大を実施していきます。

労働安全衛生に関する認証取得状況(OHSAS18001等)

労働安全衛生のマネジメント規格は、国内と比較して労働災害が多く、労働管理の強化が必要な海外の工場を取得を推進しており、その割合は35%です(総生産量重量基準)。

今までは個別工場で認証を取得していましたが、活

動の標準化・高度化をめざし、アジアの5工場で統合化に向けた活動を実施しています。今後、ISO45001への移行や統合する工場を増やすなど、認証取得拠点の拡大を実施していきます。

品質に関する認証取得状況(ISO9001等)

外部認証を受けている工場の割合は95%です(総生産量重量基準)。今後、認証取得工場を拡大していきます。

外部認証取得一覧



→「ISO等認証取得一覧」

<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/environment/activity-data/certification.html>



和歌山工場が「レスポンシブル・ケア(RC)」の優秀賞を受賞

一般社団法人日本化学工業協会(日化協)より、レスポンシブル・ケアのさらなる発展、拡大を図るため、優れた功績・貢献をした事業所などが表彰される日化協RC賞の「優秀賞」に和歌山工場が選ばれました。

今回「RC優秀賞」を受賞したのは和歌山工場の「保安力強化プロジェクトチーム」で、化学プラント設備の保安力強化として危険源管理(変更管理体制・設計Know-Why伝承・異常現象時の行動マニュアル)の3つのしくみに焦点をあてた安全・安定操業への貢献活動が高く評価されました。



表彰式